

今回は、安永先生が最近の忙しい特訓講座の中で、どうか一日だけ授業がなかった日に、「日帰り」で行かれた「平等院鳳凰堂＝宇治上神社」からもらってこられた、面白い文書をコピーしました。「平等院鳳凰堂の詳しい言われ」や、君たちや君たちのおうちで大切にしている「おみくじ」や「お守り」をどのように扱ったらよいかのかわかりやすく書いてありますので、読んでみて楽しんでください。ついでに今日29日に、3年生のこれからの頑張りを祈願しに「太宰府天満宮」についてお願いをしておみくじを引いてきましたので、張り付けておきます。館長など「先生は無神論者的な発想ができないと学習指導はできない」などと硬く考えています。しかししばしば神頼みをしたりおみくじを引いたりしています。それは「自分がいま何について考えているか」とか「自分の望みは何なのか」そして「自分の心の中の弱さを覗くため」です（笑）。安永先生の写真は授業の合間にもTVで見せてもらってください。

宇治上神社の不思議

お参りになられた皆さんから、よくご質問がある事を集めてみました。

☆ お守りの紋や、おみくじなど、どうしてうさぎさんなの？

皆さんがご存知の当社の地名「宇治」ですが、かつては「うさぎのみち」「菟道」と書いて「うじ」と読みました。当社の御祭神の一柱であられる【菟道稚郎子】は昔の漢字の「菟道」と書きます。

☆ 世界遺産の建物、国宝の建物はどれ？

本殿と拝殿は「国宝」で、それぞれ1060年（康平3年）、1215年（建保3年）頃に建立されたと思われまふ。歴史資料等が無く、先の年代は「年輪年代測定法」により算出されたものです。春日社は「重要文化財」です。世界文化遺産の指定は当社個別の指定ではなく平成6年に京都の17箇所同時に「古都京都の文化遺産」として指定を受けました。当社の「世界文化遺産指定区域」は「後ろの木々の景観も含め境内地・建物すべて」です。

本殿・拝殿、共に、「左右対象」ではありません。右と左の違い、見つけられましたか？

☆ 正面の二つのお山のお砂はなんのため？

拝殿前の砂で盛られた円錐形の小さな二つの山は「清め砂」といい、当社では八朔祭（9月1日）に氏子さんたちによって奉納され、境内のお清め用の砂として1年間盛られ続けます。お正月、お祭等大切な日に際して、境内にまき散らし、境内地を「お清め」いたします。当社での「清め砂」は、まさに境内地「お清め」の為のお砂であり、よく、他の社で見られる、神が降りられる依代（よりしろ）を表しているわけではありません。

☆ 桐原水って湧き水なの？飲んでいいの？

「宇治七名水」の内、唯一現存し、今なお澄々とわきいずる湧き水です。ですが、もともと神社にお参りする為に手を清める為の「手水」として皆さんがお使いになられてますので、お飲みになられたい場合は、直接ではなく、一度沸かしてからお飲みください。

☆ 大きなご神木は何年たっているの？

拝殿右脇の大きな木は「ケヤキ」です。樹齢はおおよそ330年以上たっています。

☆ 本殿の右側に大きな石があるのはなぜ？

おおきな石は昔、お社があった「社跡」の標です。跡とはいえ、お社があった神聖な場所ですから、人が踏んだりしないように、大きな石などを置いて敬う、昔からの日本の慣わしです。**当社には『お社跡』の大きな石はもう一箇所あります。何処でしょうか？見つかりますか？**

☆ せっかくのおみくじ、結んで行かなくちゃダメなの？

おみくじは引く時に 私の「いつの」「何を」神様に占っていただきたいのかを思い浮かべて引きます。その「いつの」が大事です。それが「来年1年の・・・」なら「1年間」、「旅行中の・・・」なら「旅行期間」、「今日の運勢」なら「今日中」は持っているのがよいのです。その期間が済んだら、近くの神社に結びに行きます。引いた神社に結ばなければいけない訳ではありません。

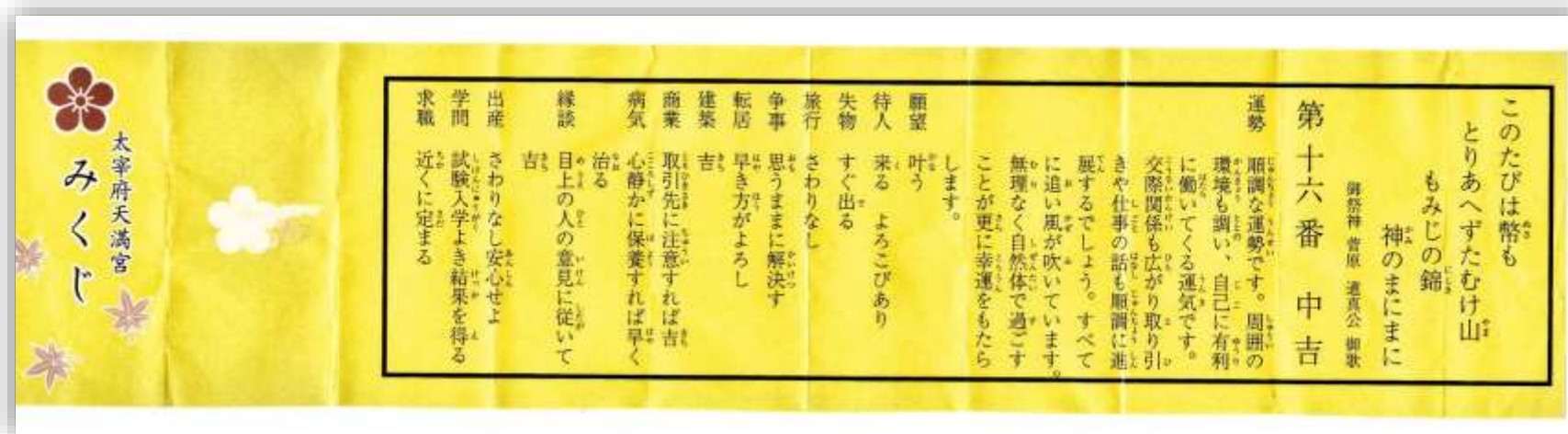
御札お守りは1年で効力がなくなるのですか？今日受けたら来年の今日まで？
 そうではありません。そもそも『御札』『お守り』とは何でしょう？『御札』や『お守り』とは、神様の「依代」です。「御札」も「お守り」も神様がお移りになられる・つまり、皆さんにたどって言うなら、神様がおいでになられる「お家」と言うことができます。
 ところで、皆さんのお家でも「年末大掃除」されますよね？それは、1年間の埃や汚れを綺麗にして、すがすがしい気持ちで新年を迎えたいと言う人としての願いです。綺麗になったお家で迎えるお正月は気持ちのよいものです。神様も同じです。日本の人々は古来より敬神（神様を敬う気持ち）の念篤く、1年を経て綺麗なお守りや、御札を神社にお返しして、新しいお守りや御札を授かり、神様と共にすがすがしく新年を迎える習慣があります。
 神社にお預けした、御札やお守りは神主が祝詞を奏上して、それぞれのお守りや御札においてられる大勢の神様に「本の御座」（神様が元々おいでになられた場所）にお帰りいただきます。その後、心をこめてお焚き上げいたします。
 1年間色々な災厄から守っていただいた御札お守りをお返しして、新たにお守りを受ける事は、簡単に言うと、神様の新しいお家への「お引越し」です。
 もう解りましたね？そして「御札」「お守り」「神様のお力」に期限があるものではありません。神様にも新しい「お家」に「お引越し」していただいて、すがすがしいお気持ちで、私たちを見守って下さいますようお祈りしましょう。

宇治上神社

神社雑学クイズ

宇治上神社

- 1 引いたおみくじは、「良ければ持って帰る、悪ければ結ぶ」コレ正解？
- 2 神社のお守りで800円とあったので、千円札と300円を渡し、500円硬貨をもらった。
- 3 身内に不幸があったので、鳥居をくぐらずに、鳥居のわきから神社に入ったから大丈夫？
- 4 受験に合格したいのであちこちの神社の合格守りを一緒に持っている。大丈夫？
- 5 今年は本厄なので必ずご祈祷を受けなければ、災厄がふりかかる。
- 6 神社にいるご祈祷をする人はみんな「宮司(ぐうじ)さん」。
- 7 年末の「お焚きあげ」、お寺のお守りと神社のお守りは、それぞれへ分けてお返ししようと思います。



- 1× 間違いです。おみくじは引く時に 私の「いつの」「何を」神様に占っていただきたいのかを思い浮かべて引きます。その「思い浮かべた期間」が1年なら1年、旅行期間なら旅行期間、期間が済んだら近くの神社に結びに行きます。引いた神社に結ばなければいけない訳ではありません。みなさんもおみくじをひかれる時は、神様にお尋ねにならりたい内容、ご自身の「いつの」「何を」を心にお思いになられながら、例えば「私の旅行中の恋愛運は？」とか「今年一年の私の金運は？」とか「転職を考えてるのですが？」とか、神様に直接お尋ねになれるお気持ちでお引きになってみてください。大吉、吉等は、それぞれの方のご運の総運ですので、お友達やご家族とお比べになれる事はせん無いです。おみくじですから当然「凶」もありますが「凶」は「悪いおみくじ」なんかじゃありません。なぜなら、「凶」は神様からのあなたへの「注意」だからです。『あなたのこのままの生き方だと・・・となりますよ。・・・の様に改めなさい。』とお言葉ですから、真摯に耳をかたむけてお聞きになり、そのように生活を改めれば決して悪い方向に向かうものではありません。
- 2× 間違いです。神社での支払い・元々は「お供え」なので、お釣りの出ないようにお渡しするのが礼儀です。披露宴に行くと、祝い金を出すとき、「お釣り」なんて要求しませんよね。止む終えず、「普通にお釣りをいただく」ならともかく、自分の欲しい硬貨を得んが為、相手に計算のわずらわしさをさせる行為は、結局自分の財布を軽くしたいだけの利己主義の表れです。コンビニエンスストア等ならともかく、社寺仏閣では大変失礼な事ですので控えましょう。
- 3× 間違いです。鳥居は「神様のおられる神聖な場所（神域）」と「我々が生活している（俗界）」との境に立てて「ここから神域ですよ」という意味の一種の『門』です。ですから、神社が無くて神域であれば鳥居の建てられている所はあります。俗に親族に不幸（亡くなられた）があった場合「鳥居をくぐってはならない」といいますが、それは、神道で言う「穢れ」にあたるという事で、「神社の境内（神域）」に入っはいけない」ということです。鳥居をくぐらずにわきから入ればよいという意味ではありません。
- 4○ 正解です。お守りは何体持っても大丈夫です。神様が喧嘩をするという事はありません。ただし「神様に失礼にならなければ！」という前提です。何体もたくさんのお守りを持っていると、知らず知らずにカバンの中で荷物の下敷きになっていたりすると大変です。何体も持っている場合は、お守りはまとめて綺麗な袋に納めてつけて粗末にならないように、持っているといいでしょう。
- 5× 間違いです。ご祈祷を受けるか受けないかは、ご本人の考えです。今年はご祈祷ではなく、お守りで大丈夫そうかな？と思われれば、必ずご祈祷を受けないといけないと言うわけではありません。逆に、厄年ではなくても、不安の多い年は、ご祈祷をお受けになるとよいでしょう。
- 6× 間違いです。「宮司」と言う呼び名は、会社で言えば「社長」です。「神職（しんしよく）」もしくは「神主（かみぬし）」が正しい呼び名です。
- 7○ 正解です。神社（神道）とお寺（仏教）はそもそものお祓いの仕方がちがいます。神社にお預けした、お守りや御札（おふだ）は神主が祝詞（のりと）を奏上して、それぞれのお守りや御札においでになられる大勢の神様に「本の御座（もとのみくら）」（神様が元々おいでになられた場所）にお帰りいただきます。その後心こめてお焚き上げいたします。